
ポスター No.112

“つながる・ささえあう”ための ささえあい活動

各務原市 八木山地区社会福祉協議会

【説明】

山すそを造成してできた住宅団地で、高齢化率 43.5%。坂が多くて老後は住めないからと引っ越し人がいる。ここをみんなの終の棲家になりたい。そのために、ささえあうまちにしたいと活動してきた。

生活上で困りごとができたらささえあおうと、生活支援ボランティア活動を始めた。初めてすぐに、気づいた。「活動する者も依頼者からささえられているのを感じる。一方的な支援ではない。これはささえあい活動だ」ささえあい活動と名称変更をした。

活動の拠点「ささえあいの家」で、月1回包丁研ぎをする。この時包丁の切れ味が良くなることが最終目的ではない。包丁研ぎを通して、依頼者と活動者がつながることこそが目的である。研ぐ間、双方が会話を、笑顔を交わす。研ぐ者は、感謝され、自己有用感がもてる。

包丁研ぎで、初めて会った2人につながりができる。すべてのささえあい活動で、このように、最終目的をつながる、そして互いに支え合う関係になることを目的とする。

利用者から、無料だと2度と頼めないとの声が大きくなり、有料有償とした。これにより、双方が対等になった。

一方的にささえられるばかりではない。Aさんに巣箱を作ってもらったBさんは、Cさんに自分のできること、虫食いセーターの繕いをしてやる。できる人ができる時にできることをして、ある時はささえる人に、別の時にはささえられる人になる。こうして、地域全体がささえあうまち、心豊かに暮らせるまちに向かって活動を続けている。



「いきがい・助け合いサミット in 神奈川」2021年 出展ポスター